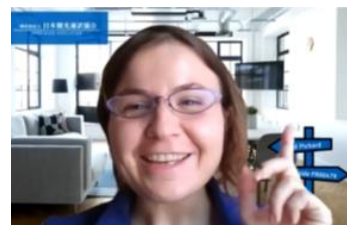


「フランス語ガイドオンライン研修」第二弾 8月研修終了報告

第一支部運営委員会

2020年8月6日、21日、27日の計3回に亘り、「フランス語ガイドオンライン研修」第二弾8月研修が実施されました。この研修は本年6月から7月までの間、4回にわたり実施した同研修シリーズの第二弾です。前回のシリーズが大好評で、是非継続して欲しいとの要望から8月に追加実施したものです。



講師の Astrid PICHARD さんはフランス人女性で唯一の全国通訳案内士の仏語資格保有者で、各研修には事前に資料を配布し、研修後もまとめ資料を配布する等、大変熱意に溢れた講義をして頂きました。参加者は関東地区のみならず、京都、大阪、兵庫、愛知、山梨からも参加され、累計で72名（会員66名、非会員6名）と委員2名が各回参加しました。毎回、ガイドにとって重要なテーマを扱い、8/6は「日本の歴史と東京国立博物館」のテーマでした。日本の歴史では縄文時代から江戸時代までの各時代の説明をどのようにフランス語で表現するかを学びました。又、東博については、どのような順路でどの部屋を重点的に見るかも具体的に教えて頂きました。参加者からは、具体的な説明で、今後のガイドに大変役立つとのコメントを頂きました。

8/21は「日本の城と姫路城、松本城」をテーマに、日本の城の各特長をフランス語でどのように表現するかを学び、又、フランスの城との違いも具体的に説明されました。フランスの城は石でできているのに対し、日本の城は石垣の上に木で天守を作っており、フランス人は何故燃えやすい木を使うかと不思議に思うとのことでした。又、日本では城下町のように城を中心に町が発展するが、欧州では、町の中心は教会で、城ではないとのことでした。

又、姫路城と松本城の地図を見ながら、具体的な参観ルートを所要時間毎に説明頂きました。

8/27は「フランス人観光客の特徴等」をテーマに、フランス人観光客の日本に対するイメージや、観光の目的（買い物はあまりせず、歴史的、文化的なものを好む傾向）等を説明し、又、お土産として人気のあるのは、浴衣、風呂敷、包丁等とのことでした。フランスで近年日本に対する関心が高まった理由に、1980-90年代の日本アニメ人気の頃に育った世代が大人になり、日本旅行に関心を持ったことや、2014-15年に開催された北斎展の成功の影響、2018年の日仏友好160周年による各種日本イベントが開催されたこと等が影響しているのではとのことでした。

当研修中、参加者からの日頃の様々な疑問に答えて頂き、参加者皆様の今後のガイドに大いに参考になったことと思います。今回、コロナ禍により、オンライン研修の形式となりましたが、全国からご参加頂くことができました。又、ガイドにとって重要な様々なテーマでこの夏、前半4回、後半3回の計7回の研修を実施し、大半の参加者はほとんどの回にご参加されました。この研修が今後の皆様のフランス語ガイドの一助になったなら幸いです。